



山行報告

黒岳(9月13日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

昨晚、大雨が降ったが、雨も上がってさわやかにになりそうな朝だった。

甲斐大和駅に降り立ち、現地集合の人たちと合流する。予約したタクシーに乗り込み、湯ノ沢峠登山口に向かう。雲の多かった空も、次第に青空が広がりはじめた。

まずは林道から焼山沢沿いに登っていく。サンヨウブシかと思うが、トリカブトの仲間が、たくさん咲いている。サンヨウブシは、トリカブトの仲間ではめずらしく無毒だそうだ。ただ、本当にサンヨウブシかどうかは分からない。

沢を5回ほど渡り、足下に注意しながら登っていく。レイジンソウに似た小さなトリカブトの仲間は、アズマレイジンソウだろうか？ とにかく、トリカブトの仲間が多い。サラシナシヨウマも咲いていた。



富士山を背に草原を歩く

湯ノ沢峠について、トイレを済ます。峠からは、急登が続く。しかも、笹藪で、所々頭よりも高い。そこを抜けると、白ザレのところに出る。ここはなかなか展望がよい。富士山も見えてきた。白ザレを過ぎ、少し登って樹林が切れたところからは、南アルプスがよく見えるところに出た。今日は、雨上がりで最高の天気だ。さらに行くと、八ヶ岳も見えてくる。千葉大からインターンシップで参加したTさんは、急登のサポートを頑張ってくれた。



アザミに止まったヒメアカタテハ

急なところを過ぎると、草原状のところに出る。ここは、ハンゴンソウが咲き、とても雰囲気の良いところだ。お昼を展望の良いところに行こうかと思ったが、涼しい方がよいということで、先頭はさらに登っていく。白谷丸はそのまま登ったところにあり、真っ直ぐ登って正解だった。

白谷丸でお昼にするが、ここはすばらしい展望だ。正面に富士山をながめながらの昼食は最高だった。南アルプスから八ヶ岳、奥秩父までよく見える。さらに杓子山や御正体山、三ッ峠

山などもよく見える。周囲には、マツムシソウやアザミ、タムラソウなども咲き、お花畑にもなっている。ヒメアカタテハやキアゲハ、キベリタテハなどの蝶が舞い、上空にはノスリが3羽ほど飛んでいた。

ここから、もう少し奥にある黒岳に空身で向かう。黒岳山頂は、樹林に被われて展望はないが、一等三角点があった。記念写真を撮って白谷丸に戻る。



下りは、順調に下っていく。湯ノ沢峠に着くと、少し先のお花畑まで行ってみる。いつもの

ら、マツムシソウやワレモコウ、オミナエシなどでいっぱい草原には、タムラソウなどが咲くだけで、オミナエシなどは全くなかった。今年は冷夏だったため、もう花期が終わってしまったのだろうか？

湯ノ沢峠に戻り、避難小屋に入ってみた。布団が何枚も置いてあり、電気も来ている。避難小屋としては、なかなか良い小屋だ。

登ってきた沢沿いの道を順調に下っていく。林道に出て、車道をはがが下る。新興宗教の神社(?)を通り過ぎると、やまと天目温泉は近い。温泉で汗を流して、予定していた市営バスに乗って甲斐大和駅に向かった。

コースタイム

湯ノ沢峠登山口(9:45)...湯ノ沢峠(10:45-11:00)
...白谷丸(12:00-12:20)...黒岳(12:45-12:50)...
湯ノ沢峠(13:50-14:10)...湯ノ沢峠登山口
(15:05-15:10)...やまと天目温泉(16:10)

八海山縦走(9月20日~21日)リーダー養成コース

参加者 会員(健常者5名)
会員外(健常者1名)

9月20日

台風がそれで、今日はまずまずの好天のはずだったが、日本海側の山は、西高東低気圧配置の影響があるようで、山頂付近が曇っていた。ただ、昨日、関東では非常に寒く、山での寒さを心配したが、ほとんど寒くはなく、行動中は暑かった。

ロープウェイを降り、階段を歩きはじめる。登山道は、赤土で滑りやすかった。紅葉が始まったばかりの木々を楽しみながら、4合目、4合半と登っていく。目指す女人堂がよく見えていた。

女人堂の上の水場が枯れていないか心配だ

だったので、下山してくるベテランそうな人に聞いてみたが、その水場は登山道の脇で、きれいではなく、お勧めではないということだった。そこよりも、千本檜の小屋近くにある水場がきれいでお勧めだということだった。

それで、今日の泊まりを女人堂ではなく、千本檜小屋の脇にある八海山避難小屋にすることにした。ただ、この小屋は1,000円払わなければならない。小屋の手前にある薬師岳への登りで、オニシオガマという花を初めて見た。また、水場に行く途中には、コゴメグサの仲間がきれいに咲いていたが、何コゴメグサかが分からなかった。この水場は、お勧めだといわれたが、ドラム缶のようなものに溜まった水で、ペットボトルに汲むと、少し黄色い。小さな虫なども浮いていて、何がお勧めなのかと腹が立った。しかも、翌日、女人堂近くの水場で水を飲んだら、遙かにおいしいではないか。アドバ

イスしてくれた人の感覚が不思議でならなかった。

避難小屋に入り、あとはいつものように、乾杯し、夕食の準備に取りかかった。

9月21日

夜半に外に出てみると、満天の星空だった。今日は、いよいよ稜線の縦走だ。その後、新開道を下る予定だったが、小屋の外に書いてあった「屏風道は下山禁止」という看板を見て、てっきり私たちは屏風道を下る予定だとばかり思っていたため、小屋の方に聞いてみて、あきらめてトラバース道で戻ることに変更した。

小屋を出て、地藏岳を巻いたところから鎖が始まる。長い14mの鎖を登ると、稜線に出た。天地人で有名な地藏岳に行ってみようかと思ったが、先のことを考え、止めて不動岳に向かう。



不動岳の下りは2つの鎖場がある。七曜岳を過ぎ、白河岳は東面を巻く。鎖を使ってトラバースするが、なかなか高度感があって、緊張する。白河岳へはさらに鎖を登って立つ。

登り着いたところが白河岳のはずだが、白河岳の標識はその次のピークにあった。しかし、その向こうには、摩利支天が見えているので、もし標識が正しいとすると、釈迦岳がないことになる。ロープウェイのチケットの裏にも、白河岳の次に釈迦岳があるので、たぶん、標識が間違っているのではないかと思われる。

釈迦岳を下ると、迂回路に降りる道があり、

その付近だけオアシスのようだった。そのコルから摩利支天へは、はしごを登り、さらに急な鎖を登って立つ。ここで記念写真の要望があったので、落ちないように注意してパチリと撮る。

摩利支天の下りも急な鎖場だ。慎重に下り、剣ヶ峰は、東側をトラバースする。そして、大日岳への登りの梯子と鎖は、ほぼ垂直だ。重いザックが後に引かれがちのため、上に上がってからロープを出して2人ほど確保する。



そして、登り着いたところが、大日岳だ。ここで大休止とする。これまでもすばらしい展望を楽しみながらきたが、やはり最高点の展望はすばらしい。近くに入道岳があり、その左手には、越後三山の一つ、中ノ岳があり、その左には駒ヶ岳が佇む。さらにその左手には、ここよりもかなり低い浅草岳と守門岳があり、その左手、日本海側には弥彦山があり、その左手、海の向こうに佐渡島も見えた。そして海側を左に進むと、米山が端正な佇まいを見せ、妙高連山がある。その左手奥には、白馬岳などの北アルプスがうっすらと見えていた。さらに手前の六日町付近の田んぼがあって、遠くには、苗場山などが見えているはずだが、同定できなかった。そして、すぐ近くに、巻機山がたおやかに佇んでいる。

そんな大展望を恣にのんびりと休んだ。

そして、大日岳からの下りは、15mの急な下りなので、ロープを出して確保しながら下ってもらう。急ではあるが、下に広い登山道があるため、あまり高度感を感じなかった。



八海山の最高峰、大日岳にて

ここから、迂回路を使って避難小屋まで戻る。このコースも、何カ所か鎖場があり、慎重に通過した。朝の登りの時には気づかなかった、おもしろい形をしたニードルが地蔵岳の手前にあった。ローソク岩とでもいうのだろうか？私には、ヘビが鎌首を持ち上げたように見える。

避難小屋で置かせてもらったゴミを持って、下山する。今日は敬老の日だが、登山者が非常に多い。薬師岳下の鎖場は、登りが大渋滞となっている。こちらも、かなり順番待ちをしたが、

六ツ石山(9月27日)

参加者 会員(障害者6名、健常者13名)
会員外(障害者1名、健常者2名)

天気予報では、曇り一時晴れだが、山に近づくにつれ、雲が厚くなり、雨が降らないか少し心配になる。

今回は、Hさんにリーダーを務めていただく。水根駅でバスを降り、班編制を伝え、自己紹介を行う。今回は、初参加のMさんがいるため、新鮮な雰囲気だ。

バス停から車に注意して道路を渡り、舗装道路を登っていく。眼下に奥多摩湖を見下ろし、クサギの実や民家の軒下にできたスズメバチ

その後は順調に下る。途中にあった小さな池に立ち寄ると、いろんなトンボが飛んでいた。ギンヤンマではないかと思ったトンボは、ルリボシヤンマだったようだ。他にも、赤とんぼや糸トンボが飛んでいた。

ゆっくり降りてくるメンバーを置いて、先の下って展望台で周囲の山の名前を確認してからロープウェイ乗り場に戻った。あとは、文明の利器が何もしなくても下界まで運んでくれる。

コースタイム

- 9/20 ロープウェイ山頂駅(13:55) ... 女人堂(15:05-15:15) ... 薬師岳(16:05) ... 八海山避難小屋(16:25)
- 9/21 避難小屋(6:30) ... 白河岳(釈迦ヶ岳)(7:40) ... 大日岳(8:15-9:00) ... 八海山避難小屋(10:00-10:45) ... ロープウェイ山頂駅(12:30)

の巣を見ながら登っていく。民家の脇を通って登山道に入る。民家のおばあちゃんが、気さくに声をかけてくれる。



クサギの実

しかし、ここからトオノクボまでの登りは、急登が続き、非常に厳しい登りだ。とにかくゆっくりペースで登っていく。風ノ神土手前の平坦地で休憩し、さらに続く檜林の急登を頑張る。しかも、この付近からは、岩混じりになる。障害を持つMさんには、ザックに付けたひもに掴

まって歩いてもらう。

これでもかと続いた急登も、右側から上がってくるハンノ木尾根が見えてくると、傾斜も落ちてトラバースにはいるため、トオノクボが近いことが分かる。トオノクボは、防火帯となっていて、樹林が切れ、気持ちの良い場所だ。



途中に多くの栗があり、それを拾っていた数人の人たちが少し遅れて到着した。ここで昼食を取り、傾斜の落ちた尾根を登っていく。この付近は、ずっと防火帯だ。トリカブトがきれいに咲き、足下には、栗が無数に落ちている。栗ご飯を狙っているFさんに、栗をプレゼントする人がたくさんいた。栗の皮をむくのは、旦那さんの仕事とか？

リスかサルかは分からないが、栗の皮をうまくむいて食べたようで、栗の皮だけのものもたくさん落ちている。とにかく、この尾根は栗が多い。

山頂はまだ先だと思っていたら、ひょっこり飛び出した。予定タイムとほとんど変わらない時間だった。標高差900mの登りをみんなが力を合わせて登ることができて、本当に良かった。

高水三山(10月4日)

参加者 会員(障害者7名、健常者12名)
会員外(健常者2名)

た。ただ、山頂は雲の中に入ってしまったため、展望は全くなかった。



山頂で集合写真を撮って、石尾根を下る。最初は歩きやすかったが、次第に傾斜も増し、足下も岩混じりの道で歩きにくくなってきた。ようやく三ノ木戸への分岐を過ぎ、三ノ木戸山の山腹をトラバースする。植林帯に入ると、夜のように暗かった。長く歩いた疲れが出てきて、早く駅に着きたいという思いが強くなってくる。しかし、車道に出ても何度か近道を通るのだが、その道がまた気を抜けない道だった。それでも、ようやく最後の階段を下りて青梅街道に飛び出した。暗くなる前に着いて良かった。

奥多摩駅で乾ききった喉を潤し、電車に乗り込む。登山グレードCの厳しい山をリードしていただいたHさんと、協力してくださったみなさまに深く感謝申し上げます。

コースタイム

水根(10:05)...トオノクボ(12:30-13:00)...六ツ石山(13:45-14:00)...三ノ木戸分岐(15:00)...奥多摩駅(17:45)

悪天の予報が続いているが、この日曜日だけが天気の良い予報だった。実際には、雲は多いものの、時折日も差し、まずまずの天気だった。

まずは、軍畑から車道を登っていく。高源寺を過ぎると、急なコンクリートの道を登るようになる。そして、ようやく山道へと入っていく。



高水山への尾根道を歩く

沢筋の道を登り、左手の尾根へと登っていく。尾根に登り付くと、ひんやりとした風が心地よかったが、いつまでも風に当たっていると、寒すぎるように感じた。尾根に出ても、暗い植林帯の中を登っていく。右手の尾根に上がり、気持ちよい道を登っていくと、右下に車道が現れてきた。行く手には、常福院も見えてきた。

常福院で昼食を取ろうと思ったが、お寺の方が、その上の展望台に上がった方が展望が良くしてお勧めですよと言うので、トイレを済ませて、上の東屋で昼食とした。ここからは、惣岳山や御岳山方面などが見えていた。今回、初参加のIさんは、昼食後スケッチをしていた。小さなハガキサイズの手紙に、ササッと書くので、みんなうらやましそうに見ていた。

昼食後、高水山に登り、そこで記念写真を撮る。そして、休憩せず、そのまま岩茸石山に向かう。下りは、滑りやすいところがあり、慎重に下る。その後は、歩きやすい尾根を快適に歩くが、岩茸石山の登りは、岩混じりの登りとなる。石がキノコのように点在しているので、岩茸石山という名が付いたのだろうか？

山頂に近づくと北側の展望が広がってくる。わずかだが青空も見えて、気持ちの良い山頂だ。

谷川岳(10月10日～11日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

山頂からは、棒ノ折山や川苔山方面が見えていた。ふり返ると、高水山の山頂も見える。



岩茸石山の山頂にて

ここで、もう一度集合写真を撮って、山頂を後にする。この下りも、岩混じりの急坂のため、慎重に下る。植林帯の多い山だが、時折、雑木林も現れ、やわらかな緑に心が和む。

最後の惣岳山への登りにかかった時、初参加のIさんが足をつってしまった。この登りは、岩場を両手を使って登るようなところがあるため、Aさんに付き添っていただいて、巻き道を歩いていただくことにする。

他のメンバーは、惣岳山の山頂に立ち、下山へとかかる。巻き道との合流点で、Iさん、Aさんと合流し、関東ふれあいの道を下っていく。標高差はあまりないが、なんどが登り下りを繰り返して、最後の急な斜面をジグザグに下っていくと踏切の前に飛び出した。

全員揃ったところで、御岳駅に向かう。予定の電車より30分ほど遅れたが、ホリデー快速に乗車することができ、そのまま新宿に向かった。

コースタイム

軍畑駅(9:35)...常福院(11:30-12:20)...高水山(12:30)...岩茸石山(13:05-13:25)...惣岳山(14:20-14:35)...御岳駅(16:50)

10月10日

今日は関東はよい天気予報だったが、新潟県の予報は悪く心配だった。しかし、水上駅が近づくと、青空の下に谷川岳がくっきりと見えていた。

水上駅から臨時のバスに乗り、ロープウェイの駅へ。そこで先に来ていたTさんとMさんに合流する。ロープウェイは、思ったよりも空いていて、すぐに乗ることができた。

ロープウェイで上がっていくと、明日登る予定の白毛門がよく見えてきた。その左手には、笠ヶ岳と朝日岳が見える。

ロープウェイを降り、トイレを済ませて出発する。最高の紅葉とは言い難いが、天神平も紅葉が進んでいた。時折、木道のある道を緩やかに登っていく。ふり返ると上州武尊山がよく見え、その左手には、尾瀬の笠ヶ岳と至仏山がよく見えている。

田尻尾根の登山道分岐を過ぎ、斜面をトラバースしつつ、天神尾根へと歩いていく。谷川岳が非常に立派に見えるところだ。ブナの紅葉も素晴らしい。

天神尾根は、全体的に、尾根の右側をトラバースしている。春来た時は、尾根通しに歩いたが、一箇所だけを除いて、春の方が歩きやすく感じた。

木道や木の階段歩きが続くが、一箇所、岩場のトラバースがあり、そこを慎重に通過して少し行くと、熊穴沢の避難小屋に飛び出した。春は3m以上の積雪があり、小屋が全て雪の下に隠れていたが、当然のことながら、今回は全貌を見ることができ、中で昼食を取った人たちもいた。

ここからは岩場の連続となる。全盲のMさんは、春との違いにおどろいていたが、変化のある岩の道も楽しんでいるようだった。周囲の紅葉も色合いが濃くなり、この付近が紅葉のピー

クのような感じだった。美しい紅葉を楽しみながら、岩場を登っていると、ポツポツと雨が降り出した。雨具を付けて歩くが、これ以降は、完全に雲の中に入ってしまう。

傾斜が落ち、植生保護の場所が出てくると、肩の小屋に到着する。一時期、避難小屋になったが、今は営業しているようだ。ここでは休憩しないで、山頂に向かう。残念ながら

ながら全く展望のないトマノ耳だったが、全員登頂できて良かった。

本来は、ここまでの予定だったが、オキノ耳まで行きたいという声が上がったため、行けるところまで行くことにして出発する。トマノ耳からオキノ耳までの痩せた稜線は、右側がマチガ沢となっている。降っていた雨は、あられのような、みぞれのような白いものが混ざりやすくなった。



紅葉の天神尾根を登る



谷川岳トマノ耳にて

しかし、特別危険なところはなく、15分ほどでオキノ耳に到着した。ここでも記念写真を撮って、すぐに下山にかかる。

肩の小屋で、オキノ耳まで行かなかったSさんとTさんと合流し、来た道を引き返す。これからは、ロープウェイの時間に間に合うかどうか、時間との勝負だ。ペースを早めて下ったが、全員ついてくる。ザンゲ岩を過ぎ、ぐんぐん下っていくと、雲の下に出て、視界が広がった。麓や上州三峰山などが日の光を受けて輝いている。すると、雲の下に太く短い虹がみえた。

先頭のAさんたちは、熊穴沢避難小屋で休まず、どんどん下っていったが、こちらは疲れた人もいたので、5分だけ休憩する。まだ1時間くらいあるので、十分に間に合うと判断した。

滑りやすい木道に注意しながら下り、ロープウェイ最終時間の10分前に到着できた。

ロープウェイの駅では、沢登りを雨のため中止したHさんが待っていてくれた。明日は単独で白毛門沢を登ると言っていたが、最終的には、一緒に行動して下さることになった。ロープウェイの駅から車道を歩き、慰霊碑に立ち寄ってから、土合山の家に向かう。

土合山の家は、宿泊客が多く混んでいたが、私たちは、一部屋に2人ずつ寝ることができた。風呂に入って汗を流し、夕食は、蟹に舌鼓を打ち、おいしい料理を楽しんだ。

10月11日

夜半は雨がふっていたが、朝は、雨が上がっていたので、予定どおり白毛門に登ることにして、用意を進めた。しかし、出発しようと靴を履いていると、土砂降りの雨になってしまった。しばらく様子を見たが、止みそうにないので、今日は予定を変更して、一の倉沢見物と幽の沢、虹芝寮、新道経由で歩くハイキングとする。

Hさんに車でロープウェイの駅まで送っていただき、コーヒーの匂いに誘われ、まずはコーヒータイムとする。ゆっくりしてから歩きはじめる。登山指導センターの前を通り過ぎ、近道を使って登るが、ここは最近歩かれていないのか、あまり良い道とはいえなかった。

車道を思い思いに歩き、まずはマチガ沢の出合に着く。まむし岩の話をしたら、Aさんに登ってみると進められたので、何とかと一緒に高いところが好きな私は、少しだけ岩を登ってみた。

さらに車道を歩いて、一の倉沢出合に到着。さすがにそそり立つ岩壁に、みんなおどろく。この頃には、日が差してきて、ぽかぽかしてきた。白毛門も見えている。こんな良い天気になって、中止にしたのは失敗だったかなと心配になってきた。でも、誰からも苦情が出なかったので、少しホッとした。

せっかくなので、一の倉沢を少し奥まで行ってみる。沢を2回ほど渡り、クライマーが使う登山道に行くが、片側が切れた、滑りやすい狭い岩場があるため、全盲のMさんとSさんにはそこで待っていてもらうことにした。そこから少しだけ奥に歩いて、一の倉沢を楽しんで引き返してきた。ここをそのまま登ると、岩壁へのアプローチとなる、テールリッジから南稜テラスへと続いている。

引き返してきて、出合で待っていてくださったAさんとHさんからコーヒーをご馳走になる。と同時に、雨も降りだした。出合をあとにして、幽の沢に向かう。左手の岩には、レリーフがたくさん埋め込まれている。昭和40年前後のものが多いが、今も花が添えられていた。

雨がふっているものの、ブナの林の中は気持ちが良い。舗装道路も終わり、土の道となる。一の倉尾根を回り込むと、幽の沢だ。ここの岩壁もすばらしいが、出合からの迫力では一の倉沢にかなわない。ここを過ぎて、さらに歩き、新道に下るみちを使って降りていく。

雨が激しくなり、虹芝寮とJR巡視小屋ではゆっくりできず、すぐに下ることにする。途中では、ヒロハツリバナや、マユミの実がきれいに付き、足下には、どんぐりがたくさん落ちている。ブナの実も落ちていたが今年のもではなく、昨年落ちたものではないかと思われた。

確か、ブナは3年に一度くらいしか、実を付けなかったはずだ。誰かが拾った大きな実は、トチの実だった。大きな栗のようだが、長時間渋抜きをしないと食べられないそうだ。



新道からマチガ沢のキャンプ場上がる。キャンプ場の壊れかけた竈のある屋根付きのところで、昼食とする。ここでも、Aさんにお湯を沸かしていただいて、体が温まった。旧道に上がり、下っていくと雨も上がってきた。ちょうどこの付近が、雨の切れ目のだろう。

谷川岳山岳資料館に立ち寄り、岩登りの写真などを楽しむ。Hさんの写真が掲載された岳人

越前岳(10月18日)

参加者 会員(障害者5名、健常者7名)

会員外(健常者1名)

昨晚の雨が上がって、今日はすばらしい天気恵まれた。ただ、御殿場が近づくにつれて雲が多くなってきた。ただ、これは比較的低い雲で、雲の間から富士山がよく見えていた。

愛鷹登山口に向かうバスの車窓から、ものすごく広い土地にススキが群生しているところが見られた。たぶん、ここは大野原なのではないかと思う。とにかく、こんな広大なススキの原は見たことがなかった。

登山口で下車し、声出しのあと、舗装道路を

もあり、HさんがしっかりとPRしていた。37kgのザックをTさんとMさんは担いでみていた。Aさんに進められて、ツキノワグマにまたがって記念写真をパチリ。

ロープウェイの駅からバスで水上に行き、近くの旅館の温泉に入って、最後は水上発のデゴイチを写真に収める。めまぐるしく変わった天気と紅葉、最後はSLまで楽しめた谷川岳でした。

コースタイム

10/10 天神平(10:45) ... 熊穴沢避難小屋(11:45-12:10) ... 谷川岳トマノ耳(14:00-14:10)... オキノ耳(14:25)... トマノ耳(14:40) ... 熊穴沢避難小屋(16:00-16:10)... 天神平(16:50)

10/11 ロープウェイ駅(7:50) ... 一の倉沢(8:40-9:30)... JR巡視小屋(10:35-10:40) ... マチガ沢キャンプ場(11:30-12:10)... ロープウェイ駅(12:40)

歩きはじめる。山神社から山道に入り、富士見峠を目指す。岩が少し滑りやすいが、順調に高度を稼ぎ、愛鷹山荘前に着いた。ここでトイレを済ませ、富士見峠に向かう。ここで名前のとおり、富士山が見えると思ったが、残念ながら見えなかった。昔は見えたのだろうか？

峠からは比較的緩やかな傾斜の登山道となる。しかし、途中で道がえぐれて、滑りやすく歩きにくいところが続くようになった。鋸岳展望台で昼食とする。位牌岳とギザギザの鋸岳がよく見える。足下には、キッコウハグマが咲いていた。

さらに稜線を歩いていくと、きれいに紅葉したカエデやツツジが増えてくる。木々の間からは、富士山も見えてきた。紅葉を楽しみながら歩いていると、富士見台に到着した。着いた時

は、富士山が雲に隠れてしまったが、少しすると全貌を表し、歓声が上がる。ここから撮影した富士山は、かつて50銭紙幣に使われたらしい。50銭紙幣など見たこともないが。



越前岳山頂にて

ここまで来ると、標高差はわずかだ。ひょいと山頂に飛び出した。まずは、駿河湾方面が目に見え込んでくる。駿河湾の右手に見えていたのは、伊豆半島だろう。山頂からは、手前の木々の向こうに富士山が見えた。富士山を背に記念写真。リンドウも咲いていた。

山頂からの下りは、浸食の影響で根がたくさん出て、段差の大きいところが多い。かなり時間はかかったが、予定より早く山頂を出て、バスの時間にも余裕があるので、ゆっくりと下る。途中、富士山がよく見えるところで休憩する。とにかく、裾野までスッキリと富士山を見られる山はあまりないため、存分に富士山を見ることができる。

さらに下ると、馬ノ背に到着。ここは、今まで以上に富士山がよく見える。ここまで来ると、足場も良くなり、明るいうちに十里木に降りら

れることが確信できた。

十里木が近づくと、ススキが増えてくる。日が沈みかけ、斜行線がススキに当たって、金色に輝いている。何という美しさだろうか。ススキの向こうには、うっすらと赤くなった富士山が見えている。そんな風景を楽しみながら、下っていくと、十里木高原のバス停に着いた。しかし、ここは、富士駅に行くバスが通る路線で、御殿場行きは、もう少し、愛鷹登山口方面に行ったところにあるらしい。Mさんが持ってきてくださったガイドブックに書いてあり助かった。車道を歩き、十里木のバス停でバスを待つ。



ススキと夕暮れの富士山

暮れなずむ空には、一番星が輝いていた。歩き通したみなさん、お疲れさまでした。

コースタイム

愛鷹登山口(10:10)...山神社(10:30-10:35)...富士見峠(11:25-11:35)...鋸岳展望台(12:05-12:40)...富士見台(13:20-13:30)...越前岳(14:00-14:15)...馬ノ背(16:10)...十里木(16:50)

鬼怒沼(10月24日～25日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

10月24日

鬼怒川温泉の駅前で、足湯に入ってくつろいでいたが、女夫淵行きのバスがすぐに入線したため、早々にバスに乗り込む。このバスは、満員で、補助椅子全てを使っても乗り切れず、乗り切れなかった人たちは、臨時のバスを待つことになったようだ。

バスの車窓からは、素晴らしい紅葉が眺めら

れた。中でも、川俣湖周辺が一番見事だった。すでにこの付近がピークということは、奥鬼怒温泉郷付近はもう終わっているのではないかと思われた。

まだ紅葉の美しい女夫淵温泉でバスを下車し、登山道へと入るが、今までの黒沢方面から登る道は通行止めのように、鬼怒川の右岸に付けられた階段を登るところから登山道が始まる。いきなりの急登のあと、河原付近へ降りる。新しい橋を渡って鬼怒川の左岸に付けられた整備された道を歩く。



終わりかけていると思った紅葉は、まだまだきれいだった。目を見張るほど美しい紅葉が何度も現れる。すばらしい紅葉に次々に歓声を上げながら、のんびりと歩いていく。空はどんよりと曇っていたが、青空だったら、どんなに紅葉が映えただろうか？ 曇り空でも十分に満足していくものだったが。

八丁ノ湯に着くと、入口の広場には、真っ赤に紅葉した大きなカエデの木が立っている。あまりにも赤すぎて、本当に自然の色なのだろうかと思いたくなるくらい赤かった。

八丁ノ湯から10分ほどで加仁湯に到着。加仁湯は、コンクリートの建物で、ホテルのようだった。さらに鬼怒川沿いに登っていくと、右手に柱状節理の岩壁が見える。川では、カワガラスが飛んでいた。

日光沢温泉のすぐ手前には、日光沢ノ滝がかかっている。なかなか立派な滝だった。日光沢温泉は、木造の湯治場という雰囲気のある宿で、親

しみを感じる。着いたら、早速温泉に浸かり、疲れを癒してから、喉を潤す。そしておいしく夕食をいただく。

10月25日

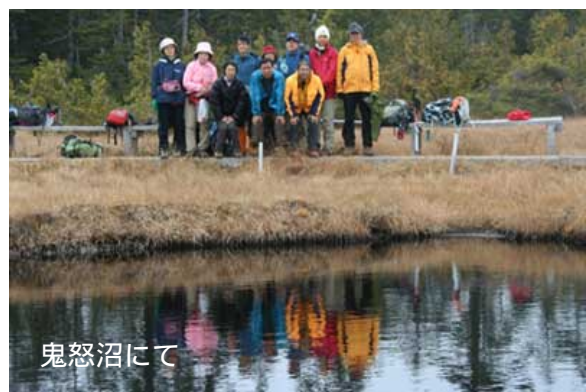
明け方、星空も見えたが、朝起きると曇っていた。ただ、ところどころ青空も見えて、昨日よりは良さそうに感じた。

6時からの朝食を済ませ、出発準備にかかる。小屋の前で記念写真を撮影して、7時少し前に出発する。

沢沿いにしばらく歩いたあと、急登が始まる。ゆっくり登っていると、日光沢温泉に泊まった他のパーティーが追い抜いていった。ジグザグの急登を頑張ると、オロオソロシの滝展望台に着く。対岸に連続した滝をかけたオロオソロシ沢が見えるが、迫力はなく、快適に登れそうに感じた。

展望台からは、まだしばらく急登が続く。そして、左側にトラバースしていく。特に危険なところはないが、大きな倒木に足場を作った部分の周辺が、足場が狭く、慎重を要するところだった。

次第に傾斜が落ち、緩やかに登っていく。日光沢温泉に泊まっていた若い人たちのグループが追い越していった。傾斜は緩いが、丸い石がところどころあるため、視覚障害者の人にとってはやや歩きにくいところだったのではないだろうか？



高度計で標高を確認しながら歩いていると、

地図どおり標高 2,020mで鬼怒沼に飛び出した。霧に包まれているが、草紅葉の湿原が広がり、非常に気持ちが良い。ただ、風を遮るものがないため、かなり寒い。フリースや雨具を着て寒さをしのぐ。

休憩は、風の来ない避難小屋で取ることとして、湿原の木道を歩いていく。ところどころに池塘があり、広い湿原は気持ちが良い。避難小屋で、休憩したあと、物見山に向かう。

物見山には、鬼怒沼山への分岐から、一度少し下り、それから登りはじめる。足下には、ゴゼンタチバナの赤い実がなっていた。緩やかな登りを少し頑張ると、物見山に到着した。物見山は、別名、毘沙門山(びしゃもんやま)ともいう。木々が葉を落としているので、天気が良いければ、展望があったと思うが、時折、ポツポツと雨が当たるような天気だったので、残念ながら展望は全くなし。

ここからは、急な下りが続くため、ゆっくり休憩できないと考え、物見山山頂で少し早い昼食とした。遅い二人を待っていた4人パーティーは、全員合流して私たちが向かう大清水への道を下っていった。ここから大清水まで、出会った人たちはこの4人パーティーだけだった。とにかくこのコースは、人が来ない静かなコースだ。



昼食後、大清水へ向かう物見山新道を下っていく。山頂直下から傾斜が非常に強く、とにかく

くぐんぐん下っていく。大きな段差や、木の根の段差、岩場もあり、変化に富んでいる。ただ、樹林帯のため、落ちたら助からないというところは数カ所だった。この道からは尾瀬の燧ヶ岳が見えると書いてあるが、今日は全く見えない。岩場などからは、展望が良さそうで、晴れていたら周囲の山が見えるのに、今回は残念だった。

急な下りが少し息を付き、痩せ尾根となる。しかし、まだまだ急下降は続く。それでも、周囲の木々の紅葉が美しくなってくると湯沢出合が近づいてくる。湯沢には、二条の滝がかかっている、なかなか迫力があつた。

出合からは、道が良くなり、快適に歩ける。紅葉もすばらしい。空がどんより曇っていて暗いのが残念だったが、渋い色合いを楽しみながら歩く。カラマツの黄葉、ススキ、そしてシラカバと変化があつて楽しい道だ。

たっぴりと紅葉を堪能した頃、大清水に到着した。バスの発車時間まで50分ほどあるので、近くの店で、いろりを囲んで、ビールとキノコ汁を楽しむ。店の方に、今年の紅葉はどうかと聞くと、全くダメだという。色がはっきりしないため、ダメなのだそう。しかし、オレンジから赤に変わるグラデーションもとてもきれいなものだった。紅葉と変化のある登山道、そして誰にも会わない静かな道を堪能できて良かった。冷えた身体には、キノコ汁と炭火が、とても温かかった。

コースタイム

10/24 女夫淵(12:20)...八丁ノ湯(14:10-14:30)
...日光沢温泉(14:55)

10/25 日光沢温泉(6:55)...オロオソロシの滝
展望台(7:50-7:55)...鬼怒沼(9:40-9:50)
...避難小屋(10:05-10:20)...物見山
(10:50-11:20)...湯沢出合(14:05-14:20)
...大清水(15:05)

明星ヶ岳(11月3日)

参加者 会員(障害者2名、健常者11名)

昨晩は雨がふっていたが、今朝、家を出る時は星空が広がり、オリオンとシリウスがよく見えていた。また、月もほぼ満月で、西の空に浮かんでいる。今日の好天が期待できそうだ。しかし、寒気に被われているため、寒かった。

小田急線の車窓からは、富士山が右に左によく見えた。強羅駅に向かう登山鉄道は、かなりの混雑で座れなかった。強羅駅から歩きはじめる。行く手には大文字のあとがはっきり分かる明星ヶ岳がよく見え、その左手には明神ヶ岳も見えている。ふり返ると、早雲山や早雲地獄が見えている。紅葉はまだこれからという感じだが、ところどころ色づいている。

標高差で100mほど下って宮城野橋を渡る。ここから登りとなる。車道を登り、老人ホームを過ぎたところで、さらに急なコンクリート道を登る。少し行ったところから登山道になる。

ここからは一気に急登になる。今日は木枯らしが吹くような寒い予報だったが、それほどでもなく、特に登っている時は、少し暑いくらいだった。紅葉しはじめた木々を見上げながら、足下の滑りやすい岩に注意して登る。電線がほぼ登山道に沿って張られているが、これは大文字焼きのためのものだろうか？

急な道を登っていると、木々の間から富士山が見えてきた。すでに7合目くらいから上は真っ白だった。さらに登っていくと、ひょっこりと大文字焼きのあとに飛び出す。正面には、富士山が雲をたなびかせ、どっしりと佇んでいる。その右手には、とんがった金時山が見える。富士山の左手には、箱根の最高峰、神山と駒ヶ岳が聳えている。すばらしい展望に歓声が上がりに、

ここで昼食タイムとすることにした。頂上は展望がないため、ここがベストの場所だろう。足下には、リンドウやヤマラッキョウの花が咲いていた。



大文字焼きの場所から見た富士山

昼食後は、いきなり大きな段差を上がることになる。登山道は、竹のトンネルの中を行くようになる。少し登ると、明神ヶ岳との分岐に着く。明星ヶ岳の山頂は、もう少し先だ。防火帯に付けられた登山道を歩くと、何の変哲もない山頂に到着した。山頂の標識も、恥ずかしそうに奥に立っている。富士山などもほとんど見えなかったが、南に目を向けると、海が見えていた。相模湾とその向こうに見えるのは房総半島のような感じだ。右手には大島も見えている。海は真っ青で、くっきりと見える。



明星ヶ岳の山頂にて

山頂からしばらくは、展望の良い場所が続く。ただ、富士山はすでに雲に包まれていて、山頂はほとんど見えなくなっていた。樹林帯に入っていくと、富士山の代わりに丹沢の大山が樹林の間に見え、小田原の街は真っ白に見えた。塔

ノ峰への道は、時折、急な下りが現れる。滑っても危険はないが、姫は尻餅が嫌いなので、上品(本人がそう思っているだけ?)に歩いている。

車道におり、さらに塔ノ峰に向かう。車道から登山道に入り、山頂手前の伐採地からは、丹沢の山々がくっきりと見えた。太陽が西の空に傾いたため、やや赤みを帯びているようだった。少し歩くと、塔ノ峰に到着した。ここは、以前、当法人でも来たところだ。あの時は初夏だったと思うが、汗だくになって歩いた思い出がある。今回は、快適だが、日が傾いてきたので、かなりひんやりしてきた。

山頂からは、急な下りが続く。ところどころ、

物見山・日和田山(11月5日)

参加者 会員(障害者7名、健常者10名)
会員外(健常者1名)

今日は奥武蔵の入口にある物見山から日和田山への縦走だ。登山口となる武蔵横手の駅に全員集合し、挨拶と班編制のあと、歩きはじめる。平日のため、駅前の広場には、私たちだけだった。

まずは、車道をしばらく歩く。30分ほど歩いたところで、五常の滝への道に行く。沢沿いで歩きにくかったが、なかなか水量のある五常の滝を見ることができた。ふたたび車道に戻って、分岐からは真っ直ぐ北向地蔵を目指す真ん中のコースを登る。

北向地蔵には、赤い服を着た三体のお地蔵さんが立っていた。ここから山道となるが、道幅が2mほどある高速道路なみに整備された道だった。ただ、ところどころ、滑りやすいところがあるので、注意は必要だ。

石があり歩きにくいのが、順調に阿弥陀寺に到着した。ここからはコンクリートの急な道を下る。右手に登山鉄道の線路が見えてくると、箱根湯本駅は近い。予定より少し遅れで、箱根湯本駅に到着。ここで、解散として、急ぐ人は電車に飛び乗った。ゆっくり組は、買い物をして、電車に乗り込む。車窓から、東の空に大きな満月が上がってくるところが見えた。大きな月に見送られながら、家路についた。

コースタイム

強羅駅(10:20)...大文字(11:55-12:50)...明星ヶ岳(13:00-13:10)...塔ノ峰(15:20-15:30)...阿弥陀寺(16:05-16:10)...箱根湯本駅(16:30)

武蔵横手に戻る分岐を過ぎ、右手の林にある一軒家を見送り、物見山の山頂を目指す。最後の登りをほんの少しがんばると、物見山の山頂に到着した。ここは一等三角点だが、どうも見あたらなかった。



南西側は少し樹林が切れていたが、曇り空の影響もあってか、何も見えなかった。

それでも、ここで昼食とする。丸太2本で作られたベンチに腰掛けて、それぞれに昼食を取る。風もなく、寒くはないが、こ

こまで半袖で来たIさんも、さすがに長袖のトレーナーを着た。



山頂を後に下りにかかる。滑りやすいので注意しながら下る。しばらく下っていくと、西側が切れて展望の良いところに飛び出した。トイレなどもある休憩ポイントだ。ここからしばらく車道を歩く。左手に高指山(たかざすやま)のアンテナを見送り、右下に行く道を下っていく。ここも歩きやすい広い道だ。日和田山の手前では、近道の直登コースを取る。岩の道で変化があって良かった。

山頂からは東京方面が開けているが、下の岩場に行った方が展望がよいので、早々に山頂を

三ツ峠山(11月15日)

参加者 会員(障害者9名、健常者18名)
会員外(障害者1名、健常者1名)

高速バスの中からくっきりと富士山が見えて、山頂からの展望に期待が膨らんだ。雨上がりの今日は、素晴らしい天気恵まれた。

河口湖で現地集合のみなさんと合流する。聴覚障害を持つ方として、初めての参加となるHさんとも無事に合流できた。今回は、Tさんが

後にする。この道は、岩場が多いので、滑らないようにサポートしていく。展望の良い岩場からは、麓の巾着田や、丹沢方面、奥多摩方面、そして富士山もうっすらと見えていた。奥多摩方面では、大岳山が目立ち、その右手にあった山は、雲取山だろうか？ 形は雲取山のようなのだが、もっと手前の御前山かも知れなかった。

ここからは、いつも岩登り講習会をする岩壁を見たいという声があったので、男道の途中から右手の道を下り、男岩の脇に出てきた。男岩西面を中心に見て、下山にかかる。滑らないように慎重に歩き、車道に飛び出した。

線路近くの豆腐屋さんで試食をしたり、豆腐を買ったりする人もいた。高麗駅には、計画とぴったり同じタイムの15時に到着した。電車も計画通りの時間に乗車し、車中でいこいの時間を過ごして、家路についた。

コースタイム

武蔵横手駅(9:25)...五常の滝(10:00)...北向地蔵(11:00-11:10)...物見山(11:40-12:30)...日和田山(13:15-13:25)...高麗駅(15:00)

ダイバー用のボードを持ってきてくださり、主にTさんがHさんとのコミュニケーションを取ってくださった。

バス停は、三ツ峠入口ではなく、三ツ峠登山口だ。間違って入口でブザーを押したが、運転手さんに教えていただいて、登山口で降りる。ここで、自己紹介をして、歩きはじめる。今回は、横浜グループの6人が三ツ峠山荘から合流することになっているため、まずは23人で出発となる。

道は、ずっと車が通れるほどの広い道だった。しかし、標高は確実に稼いで登っていく。標高差で200mほど登ったところにあるベンチで休憩とする。ここからもしばらく登りが続くが、次第に展望が良くなってきた。夏はお花畑

が広がる場所のようだ。ふり返ると、八ヶ岳と南アルプス、特に甲斐駒ヶ岳がよく見える。

三ツ峠山荘に着くと、山頂付近の雪が真っ白に光り輝いた富士山が真正面に見える。横浜グループのみなさんも待っていてくださった。昨日、山荘の方に車で運んでもらったらしい。

山頂からは、富士山の左手に、小さく頭を出した愛鷹山が見え、その左手奥には、うっすらと伊豆半島の山が見えている。その左手には、箱根の山々が見え、手前には、杓子山と御正体山が間近に見える。その左手には、中央沿線の山があり、その奥には丹沢の山々が連なる。

その左には、これから向かう開運山がすぐそこに見える。その下には、岩登りのゲレンデで有名な屏風岩が広がっている。

山荘前のベンチで、富士山を見ながら昼食とする。ヒガラがすぐ隣の木に飛んできて、餌を啄んでいた。昼食後、山頂に向かう。少し登ると展望が大きく開け、山頂直下では、南アルプスから八ヶ岳がよく見えた。



南アルプスは、富士山の右に見える。深南部から聖岳、赤石岳、荒川三山、手前の黒岳の後に塩見岳、そして農鳥岳、間ノ岳、北岳の白峰三山が見え、鳳凰三山の奥に少しだけ仙丈岳が顔を出している。その右には、三角錐の甲斐駒ヶ岳が天を突き抜ている。

甲府盆地を挟んで、右には八ヶ岳の山々が連なる。山頂に着くと、さらに、奥秩父の主脈が葉を落とした木々の向こうに見えていた。本当にすばらしい展望だ。電波塔がなければ最高の

のだが、これは仕方ないだろう。



山頂で集合写真を撮り、下山にかかる。三ツ峠山荘では、小屋の管理人の方が、私たちの活動を感じてくださった。こちらの小屋には、長谷川恒夫さんが良く訪れ、先代の管理人さんからとても可愛がられていたそう。そんな話をお聞きし、ありがたかった。

山荘から木無山に登る。木無山からは、枯れた穂の向こうに佇む富士山がよく見えた。ここからは、天上山への道を分け、尾根上の道をぐんぐん下る。左手には河口湖も見えてきた。振り向くと空は真っ青で、足下は落ち葉の絨毯。滑りやすいけれど、気持ちの良い尾根を下る。

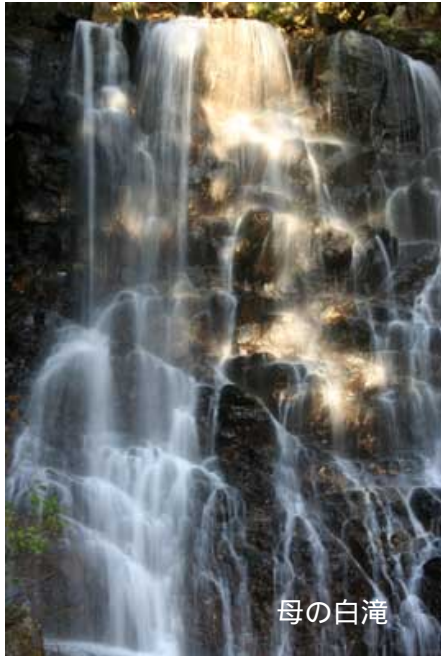
ようやく車道に出たところで、ひと休みする。ここからは、少し車道を歩き、さらに登山道を降りる。沢に向かって下る階段状の道になると、母の白滝に飛び出した。花の白滝は、2段になっていて、1段目がすだれ状で、すばらしい滝だった。部分的に日が当たり、虹もできていた。

滝からも川に沿った道を下る。民家の屋根が見えてくると、車道に飛び出した。もしかしたら、予定のバスに間に合うかも知れないと、先頭の私は急いで歩いてみた。バスの発車時刻1分前に着き、バスを待っている人がいることを確認した。

全員、バス停に集合し、ホッとしたが、目の前の道路は大渋滞だ。バスが遅れて喜ぶよりも、もしかしたらバスに乗ってから動かないかも知れないという意見が出たので、意を決して河口湖駅まで歩くことにした。そのままバスを

待つという横浜グループのみなさんと分かれて、国道を歩きはじめる。

歩きはじめて、少し行ったら、Aさんがガソリンスタンドの人に聞いたら歩くと1時間かかるので止めた方がよいというアドバイスをしてくださった。しかし、1時間で歩ければ間



母の白滝

員がんばるがんばる。歩行者用の信号がないところまで無視して渡り、河口湖大橋の歩道を越

に合うし、バスに乗っていらするより、精神的には楽なので、歩くことにする。

それから、競歩と思えるような早足で、全

えた。時間的には、大丈夫だ。それでも、国道を外れると道は真っ暗となり、道に迷うと行けないので、近くの交番で道を聞いて先を急ぐ。一本あとのバスになることを引き受けてくださったYさんとは、この交番で別れ、先発組は先を急いだ。そして、ようやく正面に駅が見えてきた時、横浜グループの乗ったバスが追い越していった。河口湖駅には、バスと一緒に着いた。

バス代を浮かせたものの、さすがに膝が痛くなった。駅から電車や車で帰る人たちと別れ、高速バス組はぎりぎりだったが、バスに乗り込んだ。当然のことながら、高速バスも大渋滞にはまり、新宿に着いたのは、1時間40分遅れだった。みなさん、お疲れさまでした。

コースタイム

三ツ峠登山口(10:30)...ベンチ(11:25-11:35)...
三ツ峠山荘(12:05-12:40)...三ツ峠山(開運山)(13:00-13:10)...三ツ峠山荘(13:20-13:35)...
車道(14:30-14:40)...川口局前バス停(16:20-16:30)...河口湖駅(17:30)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文(第4回仙丈岳)

「仙丈岳はすごいなー」とみんなに言われていたので、そんなに大変なのかなぁと思っていましたがそれほどでもありませんでした。1日目は(と中でアイスなども買って食べながら)電車とバスを乗りついで山にいき、小屋で遊んでいました。一番退屈になると思っていた電車の中ですが、持ってきたトランプで、とても盛り上がりました。

2日目に頂上を目指しましたが、雨と風でとても寒かったです。でも、その夜はとても晴れたので、友達と(J・K・Mの3人)小屋をぬけ出してみんなで星を見ていました。都会では見れないほどの万点の星でした。天の川・流れ星(たくさん)・人工衛星なども見ることができました。ぼくは、こんなにたくさんの流れ星を見るのは2年ぶりで、人工衛星を見るのも初めてだったので、うれしかったです。

でも、親友のTくんがいなかったのはとても残念だったと思います。

でも、今回、新たにMさんと仲よくなれたので、よかったです。

K.K

自然と親しむ子ども山登り教室親御さんからの感想

アルプとは知人の紹介で出会う事が出来ました。元々私自身が山登りが大好きで、これまでもファミリーハイクには行っていましたが、個人での山行には限界があるもので私が加入できる山の会を探していました。一度お試し参加をさせていただき、その後、渓と二人で会員になろうかと考えていたのですが、子供登山教室を開催していると知り、ならば子供は子供同士の方が楽しめるはずと、渓はこちらに参加させて頂く事にしました。

初回は私も同行したのですが以後は妹達の都合もそれぞれありましたし、なにより他の子供達ととても馴染んでいる様子、スタッフの方達の対応に安心し、更に、母が居ない方がより楽しめるだろうと2回目からは渓一人での参加でした。

思ったとおり、帰って来ると毎回「誰々とどんな話をした。」と仲間が出来た喜びや、「今日はミソサザイが見られた。」「前はコルリだったけど、今回はオオルリが見られたよ。」と嬉しそうに、少々自慢気に話してくれ、図鑑を出して「こんなの」と見せてくれました。

私も動植物には多少は興味があったのですが、若い頃はピークハントが目標になっていた為、一緒に山歩きをしても、とっさに鳥や植物の名前を教える事が出来ませんでした。アルプではAさんが生き物にとってもお詳しく、見つけるとすぐに教えて下さるので子供達も良く覚えているようです。

また、泊まりの山行では満天の星空や下界では見られない天の川に感動し、他のグループに迷惑を掛けないという小屋でのルール、長時間を共にする為仲間意識も新たに芽生えたようでした。毎回たくさんの方が参加され、渓にも「山の仲間」が出来たことをとても嬉しく思います。

最後になってしまいましたが、子供達を全面的に支えてくださった大勢のスタッフの方々に感謝し、お礼申し上げます。

H.K

講習会報告

岩登り技術講習会(日和田山)(9月6日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

今回は、総勢10人という多人数となった。しかし、人数のわりに、なかなか充実したトレーニングを行えたと思う。

今回は、何と言っても、未成年会員の中学1年生K君の参加がニュースだ。女岩南面のフェースと西面のチムニーを登り、懸垂下降もでき



女岩のチムニーを登るK君

るようになった。大人たちと一緒に登り、これからはどんどん追い抜いていってくれるだろ

う。これからを期待したい。

岩登りが初めての会員のTさんや会員外のTDさんも、最初はぎこちなかったものの、すぐに慣れてきて、すいすい登るようになった。

岩登り技術講習会(日和田山)(11月8日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

今回は、未成年会員の中学1年生コンビ、K.K君とK.T君が参加した。今回が初めての体験のK.T君もK.K君と共に、元気かつスムーズに登っていた。

まずは女岩南面のフェースを登ったが、ここは20人近い団体も使っていたため、1回ずつ登って男岩に移動した。男岩は、比較的空いていて、南面を登った。

今回は、実際の岩場で役立つように登山靴で登ることを中心に行った。クライミングシューズと登山靴は、やはり勝手が違い、最初は戸惑っていたようだが、つま先で立つことを少しずつ身につけてきたようだ。

アイゼンでのクライミングは、私だけだった

北アルプスの剣岳や穂高岳に登る人は、ぜひゲレンデ(日和田山のようなところ)での岩登りを体験しておくと思う。

が、次からはアイゼンを使った練習もしたいと思う。

また、今回は、隣で登っていた国際山岳ガイドの方



の方が、子どもたちへの指導など、いろいろと教えてくださった。そんな新しい出会いも楽しみながら、1人約3本ほど登った。

その他事業報告

第11回ミニハイキング(ガキ大将の森)(10月31日)

参加者 会員(健常者6名)

会員外(障害者1名、健常者5名)

今日は、八千代市内のガキ大将の森で、バーベキューだ。勝田台駅に集合するのは、2人だけのため、集合を遅らせたが、友愛みどり園のNさん親子が探していたそうだ。事前に参加を聞いていなかったが、久しぶりに参加してもら

えて、とてもうれしかった。

バスで、千葉英和高校前で下車し、車道を歩く。途中、新川を見下ろすところがあり、なかなか見晴が良かった。

ガキ大将の森に着いたが、まだ誰も来ていなかった。事前の計画がゆとりを取りすぎていて、車で来る人たちより、かなり早く着いてしまった。

肉は着いたけど、「野菜はまだか～」と待ちきれずに電話をしたが、その後すぐに全員集合して、バーベキューをはじめた。落ち葉に火を

付けるが、乾燥していてとても良く付いた。薪も威勢良く燃え、鉄板を熱くしてくれる。買い忘れていた油もMさんが買って来てくださり、本格的に焼きはじめる。



ガキ大将の森にて

「自然と親しむ子ども山登り教室」以来のK君と妹のSちゃんは、元気が良くて、半袖シャ

ツだ。肉やウインナー、カボチャ、玉ねぎなどの野菜もたっぷりと食べている。久しぶりのNさんも、おいしいと言って食べてくださる。

自分自身は参加しないのに、ごま和えや昆布などの料理を差し入れしてくださったNさんに感謝です。

最後に、みんなで写真を撮り、後かたづけをして解散としました。その後、バスに乗らず、勝田台駅まで歩いて、取りすぎたカロリーを消費しました。

コースタイム

英和 高校前 (11:00) ... ガキ大将の森 (11:20-13:40)...勝田台駅(14:20)

第21回ふれあいハイキング(野川公園)(11月1日)

参加者 会員(障害者6名、健常者10名)
会員外(健常者1名)

武蔵小金井駅をあとに、車道をはけの森美術館に向かう。はけの森美術館へは、案内板に添って、坂を少し下り、裏門をくぐって竹林の中を下る。立派な竹が茂り、趣がある。下りきったところが、はけの森美術館だ。今日はガラス絵の準備で閉館中だったため、中に入れなかった。

ここからはけの小路を歩く。小川が流れ、石畳の小路は、やはり趣があって良い。そこを通り抜け、左に折れて少し進み、右手に折れると野川の畔に出る。橋を渡ったところが、武蔵野公園の始まりだ。コスモスが美しい。広場を横切り、少し休憩していると、Hさんがくじら山に登りたいということなので、Mさんが一緒に登ってくださった。本日の最高峰でしょうか？

そこから、野川沿いに進み、バーベキューなどを行っている広場上がる。この付近の木々は少し色づいていて美しい。バーベキューをしている人たちの脇を通り過ぎ、再び野川沿いに戻る。シジュウカラが群れを作って飛び交っていた。野川は、護岸工事もなく、「春の小川」の歌に出てくるような小さな小川だ。



野川公園コブクザクラの前にて

西武線の下の道路を横断し、野川公園に入る。野川を渡って広場に行くと、桜が咲いている。これはコブクザクラという種類だそう。その先にもたくさん咲いていたので、そちらに行って昼食とする。その広場には、見事な枝振りを見せる大きなエノキがあった。樹齢何年くらい

だろうか？ 東京がビル群になるよりも、ずっと前からそこに立っていたように感じる。このような木を残してくれた武蔵野の人たちに感謝です。



広場で昼食中

昼食を取ったところから自然観察センターに移動する。センターでは、野川周辺の生き物に関する情報が豊富だ。鳥たちの歌声を聞いたり、鳥の巣、キイロスズメバチの巣、魚たち、動物や野鳥の写真などを楽しめる。そこで、しばらくゆっくりしたあと、自然観察園を一回りする。いくつもの池があり、小川が流れている。湿地には木道があり、土の道にはチップが敷き

第22回ふれあいハイキング(秋川丘陵)(11月29日)

参加者 会員(障害者8名、健常者13名)
会員外(健常者2名)

秋川駅に着き、秋留橋方面のバスの時間を見たら、次は11時20分発だった。しかし、みんなの意見は歩いてもすぐに着くということだったので、バスを使わず歩いていくことにする。

駅の南口に出て、左側に進み、411号を右に歩く。411号手前のイチョウがきれいに紅葉していた。

詰められているようで、ふかふかだ。シロヨメナやリュウノウギク、リンドウなども咲いていた。

それを楽しんだあとは、東八道路の上を通過して、わんぱく広場方面に行く。東屋付近で休憩していると、風が強くなってきた。寒冷前線が北から近づいてきたのだろう。休んだあとは、公園を出て、多摩駅まで歩く。西武多摩川線は、今時めずらしい単線だ。ほとんどの人が初めて乗ったのではないだろうか？

切符を買っていると電車が来てしまい、運転手さんは私たちが乗るまで待ってくださった。運転手さんに感謝です。

昔の武蔵野の面影を残す、野川沿いをのんびりと楽しむことができました。参加していただいたみなさまに感謝です。

コースタイム

武蔵小金井駅(9:55)...武蔵野公園(10:30)...野川公園(11:20-12:20)...多摩駅(14:30)

古風な黒塀に囲まれた中村酒造の入口にある柿の木には、メジロやスズメ、そしてムクドリやヒヨドリ、ツグミなどが次々に来ていたので、望遠鏡で数人の人たちに見てもらった。

さらに車道を歩くと、右から圏央道が近づき、インターを過ぎるとそこが秋留橋だった。見下ろす秋川では、ダイサギやアオサギ、それにカワウが見られた。また、川の上流には、サマーランドの観覧車が見えていた。

橋を過ぎ、ボウリング場の駐車場の奥から山道に入っていく。尾根に出るまでは、なかなかの急登だった。しかし、尾根に出るとなかなか道が続いている。色づいた木々を楽しみながら歩いていると、鮮やかな緑色が目に飛び込んできた。密集した竹林だった。紅葉した木々の中であって、鮮やかな緑は新鮮に感じた。竹林

を過ぎると、祠とベンチのある二条城趾に着いた。12時を回っていたので、ここで昼食タイムとする。恒例のお菓子配りが始まり、にぎやかになる。お菓子を配っていたサンタさんは、いつお昼を食べたのか分からないくらい、口が忙しかった。サンタさん、いつもお菓子をありがとうございます。



そこから山道を歩き、紅葉の美しい場所を通り過ぎると、左側にゴルフ場のグリーンが近づいてくる。霽止山には、ちょっと急なところを登った。霽止山は、ゴルフ場の最上部という感じで、ゴルフ場がよく見える。集合写真を撮って、帰りは緩いところを探して下った。しかし、小3のYちゃんは、登った時の急な道を下りたかったようだ。

ハイキングコースに戻り、サマーランド自然園のゲートを右に見てさらに進んでいく。左側に広い上川霊園を見て、さらに行くと、五日市

ゴルフ場に出る。さらに、右後ろに網代トンネルを見送って行くと、秋川にかかる山田大橋に着く。秋川の河原では、たき火をしていたようだ。



あとは、車道をぐんぐん進んで、武蔵増戸駅に計画の10分前に到着。計画の1本前の電車で飛び乗った人たちもいたが、トイレなどを済ませて、予定どおりの電車で帰ることにする。今日は、どんよりと曇った一日でしたが、雨にふられず、風もなかったために、それほど寒く感じずに、丘陵の秋を楽しむことができました。

コースタイム

秋川駅(10:55) ... 秋留橋(11:30) ... 二条城趾(12:10-12:50) ... 霽止山(13:35-13:45) ... 武蔵増戸駅(14:50)

千葉市「千葉市民活動フェア in きぼーる 2009」(11月20日、21日)

今年も千葉市民活動センターまつりが行われ、山仲間アルバムも写真などの展示で参加させていただいた。今回のまつりは、「千葉市をずっと住み続けたいまちにするために」というテーマで行われた。

「千葉市をずっと住み続けたい街にするために私たちにできること それは・・・ です!」の の中に、山仲間アルバムは、「共に支えあい、共に楽しみ、共に生きる社会づくりに貢献することです」と入れました。「共に楽



しむ」ことは、やってあげるという気持ちやや

ってもらおうのが当たり前という気持ちでは、できません。誰もが、人の喜びを自分の喜びとして、感じ取れるようになることが大切ではないかと思っています。

人の喜びを自分の喜びとして感じられる人が増えると、山仲間アルプの究極の目標である「心豊かな社会づくり」につながっていくので

はないかと考えています。

今回も千葉市民活動センター及びフェアの実行委員のみなさまに深く感謝すると共に、山仲間アルプの展示に駆けつけてくださった会員のみなさま、どうもありがとうございました。また、山仲間アルプのブースを訪れていただいた全てのみなさまに感謝いたします。

やちよ市民活動センターまつり「第6回こんにち‘わ’！ふれあいまつり」(11月23日)

第6回目となる、「こんにち‘わ’！ふれあいまつり」に、今年も参加しました。今年も実行委員でしたが、土曜日に委員会が開催されることが多く、3回くらいしか参加できませんでしたが、実行委員長はじめ、みなさまのおかげで楽しく開催することができました。



今年は、「自然と親しむ子ども山登り教室」に参加した、未成年会員のMちゃんがお手伝いに船橋から駆けつけてくださいました。また、2人の子どもたちが家族の方と訪れてくれました。

スタンプラリーの受付ブースになっていることもあり、これまでよりも多くの方が来てくださり、興味を持っていただけたように思います。

事前準備や荷物の運搬を手伝ってくださった方や、展示会場に駆けつけてくださった会員のみなさま、どうもありがとうございました。また、山仲間アルプのブースを訪れていただいた全てのみなさまに感謝いたします。

各種連絡事項

臨時総会開催のお知らせ

来年1月16日に、来年度の事業計画に関する臨時総会を、八千代台公民館で開催します。

詳細は、臨時総会議案書をご参照ください。

千葉市団塊世代市民活動支援セミナー「かえるかえるプログラム」に参加しました

11月21日、千葉市主催の団塊世代市民活動支援セミナーが、「かえる(地域を変える)かえる(地元に戻る)プログラム」というタイトルで、千葉市ビジネス支援センターで開催され、当法人は、プログラムの受け入れ団体とし

て活動内容やプログラムの説明を理事長が行いました。プログラムとしては、11月29日に実施した秋川丘陵ふれあいハイキングと

12月20日実施予定の高尾山共に楽しむ登山を用意しました。

八千代市1%支援制度(市民活動団体支援金交付制度)で支援金をいただきました

八千代市は、今年度から市民税の1%を、市

民自らが市民活動団体から申請された事業を

選択して指定できる制度をはじめました。当法人は、「自然と親しむ子ども山登り教室映写会」を申請しました。結果は、申請した額 28,300 円に対し、67,540 円(32 件)の届け出があり、

申請額の満額をいただけることになりました。今回いただいた支援金を活用して、映写会を 2 月 2 7 日に開催します。

自然と親しむ子ども山登り教室映写会開催(2 月 2 7 日(土))

上記、1 % 支援制度でいただいた支援金を基に、下記の通り「自然と親しむ子ども山登り教室映写会」を開催します。この映写会では、当

法人の活動紹介と「第 4 回自然と親しむ子ども山登り教室」の説明も行いますので、ぜひご参加ください。

- 記 -

日時：平成 2 2 年 2 月 2 7 日(土) 1 4 時～(1 5 時 3 0 分頃まで)

場所：八千代市総合生涯学習プラザ(八千代市ゆりのき台 3-7-3 TEL.047-487-3719)

内容：第 3 回自然と親しむ子ども山登り教室のビデオ上映

共に楽しむ登山などのビデオ上映・スライドショー

山仲間アルプの活動紹介

第 4 回自然と親しむ子ども山登り教室の説明・参加申込受付

以上

千葉大学から実習生

千葉大学の普遍教育の一環で、大学生が 1 人、実習で 9 月から当法人の共に楽しむ登山に参加しています。これまでに、黒岳や高水三山などに参加しましたが、これからも参加していただきますので、山のすばらしさや人のつながり

の大切さなどを、ぜひ伝えていただけたらと思います。

そして、何かを掴んで、これからの社会活動に生かしていただけることを期待しています。

会員情報

新入会員のお知らせ

9 月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願ひします。(敬称略)

正会員(4 名)

編集後記

・理事長のつぶやき

山仲間アルプでは、障害の有無や年齢などに関係なく、誰もが共に楽しむ(楽しむ)ことを大切にしています。みなさまは、共に楽しむために、何が一番大切だと思いますか？

共に進む共同作業ですから、自分の主張を抑えて、相手の意見を尊重することが、まず大切ではあるのですが、自分の気持ちを抑えるということはさまざまなストレスを生み、結局は長く続かない場合が多いように思います。

自分の気持ちを抑えるのではなく、自分自身が幸せになるように進めることが大切に思い

ます。自分の幸せを考えた時、人の喜びをそのまま自分の喜びにできると、人の喜びまで自分の喜びになるのですから、自分だけの喜びを追い求めるよりも、自分自身の喜びが何倍にも広がると思います。

喜びは、そのまま幸せな気持ちになると思いますが、そんなことはないと思う方もいるかも知れません。もし、考えが違うとすると、それは「幸せとは何か」という考えに違いがあるのかも知れません。真の幸せとは何か、これもみんなで考え続けたい大きなテーマですね。

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても

